

令和5年度秋田市指定文化財資料

- 1 名 称 勝平得之版画版木
- 2 員 数 20組
- 3 種 別 有形文化財（歴史資料）
- 4 所 在 地 秋田市大町三丁目3番21号
秋田市立赤れんが郷土館
- 5 所 有 者 秋田市
- 6 年 代 昭和
- 7 説 明

本物件は、本市出身の木版画家である勝平得之（1904年～1971年）が、版画を制作する際に用いた版木群である。

勝平得之は、秋田市鉄砲町（現大町六丁目）で生まれ、家業は紙漉き業と左官業であった。20才の頃に浮世絵版画や墨摺り版画に影響を受け独学で版画を学び、色鮮やかな独自の多色摺木版画の技法を完成させた。秋田を離れることなく、生涯にわたり秋田の風景や風俗、そこに生きる人々の生活の様子を描き続け、日本最大級の総合美術展覧会であり、いわゆる「官展」と称される帝展、文展、新文展、日展において数多くの入選を果たし、国内外でも高い評価を得ている。

伝統的な浮世絵版画は絵師、彫師、摺師による共同作業で制作されるが、勝平得之は制作当時主流であった創作版画の思潮をもとに三工程すべてを自らが行うことで、自身が意図する版画表現を可能なものとした。勝平得之は三工程の中でも特に彫りや摺りへの思いが深かった作家であり、地域に伝わる古版木にも着目し、古版木を用いた摺りも行っている。

多色摺木版画は複数の色を用い重ねることで豊かな表現が可能となることから、鮮やかな色彩が特長である勝平得之の版画では、一作品に対して複数の版木が制作された。一般的に版画家は版木を処分することが多いとされるが、勝平得之は多くの版木を残している。これらは三工程すべてを自らが行い多色摺りとするだけで独自の版画表現を得ていたこと、また絵師のみならず彫師、摺師および古版木に対する思いが根底にあったことも大きい。

勝平得之の版画作品は、墨摺りから多色摺り、展覧会出品の大判作品から葉書サイズの小品まで数多く、それに伴い版木も数多く残されている。その中でも「官展」に入選し、中央で一定の評価を得た作品の版木が本物件であり、勝平得之の木版画への思い、技術の粋が集約されたものである。

勝平得之の版画は現地での入念な観察、スケッチをもとに制作されており、秋田に生きる人々を中心に当時の町並みや農村、伝統行事などが精緻な描写で描かれ、作品としてだけでなく往時の秋田の風俗を伝える貴重な記録資料でもある。

本版木群は、制作当時のままの状態で見守られており、郷土秋田を描いた木版画家・勝平得之の業績ならびに制作技術を後世に伝える貴重な資料である。

文化財指定し、本物件に目を向けることで、今後も適切な保存が継続されるとともに、勝平得之の版画制作に関する研究がさらに促されていくものである。

【物件一覧】

別紙のとおり

【参考図書】

- ・ 秋田県立近代美術館『生誕100年 知られざる勝平得之 ―故郷をみつめる新しい眼―』（2004年）
- ・ 秋田市立赤れんが郷土館・勝平得之記念館『勝平得之記念館作品集』（2001年）
- ・ 加藤隆子『勝平得之 創作版画の世界』（株式会社秋田魁新報社、2021年）

物件一覧

帝展、文展、新文展、日展入選作品一覧

作品番号	作品名	展覧会名	入選年	版木枚数	面数
1	雪国の市場	帝展	昭和6年	3	6
2	雪の街	帝展	昭和7年	3	6
3	櫓	文展鑑査展	昭和11年	6	12
4	造花	新文展	昭和12年	6	12
5	【花四題】春(ツバキ)	新文展	昭和13年	4	6
6	【花四題】夏(ハス)	新文展	昭和13年	3	6
7	【花四題】秋(菊)	新文展	昭和14年	4	6
8	【花四題】冬(なんてん)	新文展	昭和14年	4	6
9	送り盆	紀元二千六百年 奉祝美術展覧会	昭和15年	6	12
10	雪国の子どもたち	新文展	昭和18年	3	6
11	盆市	日展	昭和21年	3	6
12	大漁盆踊	日展	昭和22年	4	8
13	豊年盆踊	日展	昭和23年	6	12
14	【米作四題】堆肥運び(冬)	日展	昭和24年	6	12
15	【米作四題】田植(夏)	日展	昭和25年	6	12
16	【米作四題】刈あげ(秋)	日展	昭和26年	6	12
17	【米作四題】耕土(春)	日展	昭和27年	6	12
18	【祭四題】たいまつ祭	日展	昭和30年	6	12
19	番楽	日展委嘱	昭和31年	3	6
20	飾山囃子	日展委嘱	昭和32年	3	6

※作品番号19、20は入選ではなく委嘱作品

指定文化財「勝平得之版画版木」の各作品概要

1 「雪国の市場」

昭和6年、帝展の初入選作品

題材は、冬の秋田市通町での朝市の風景

2 「雪の街」

昭和7年、帝展入選

題材は、秋田市保戸野の菊谷小路周辺の雪景色

3 「櫓」

昭和11年、文展鑑査展入選

題材は、秋田県北地方における当時の冬季主要交通・運送手段の馬ぞり

4 「造花」

昭和12年、新文展入選

題材は、春彼岸に供える花が必要だが、時期的に生花がないため、代わりとして造花が売られている様子

5 【花四題】「春（ツバキ）」 昭和13年、新文展入選

6 【花四題】「夏（ハス）」 昭和13年、新文展入選

7 【花四題】「秋（菊）」 昭和14年、新文展入選

8 【花四題】「冬（なんてん）」 昭和14年、新文展入選

題材は、秋田の四季と花売り風俗で、春夏秋冬の4点組み物作品

背景の色で季節を表現しつつ季節ごとの花を売る女性を表現するとともに、秋田の特徴的な装束も描かれている。

9 「送り盆」

昭和15年、紀元二千六百年奉祝美術展入選（※）

題材は、横手を代表する伝統行事の送り盆祭り

※ 神武天皇の即位から2,600年目にあたる年を記念し、開催された官展
なお、例年の新文展は開催されず。

10 「雪国の子どもたち」

昭和18年、新文展入選

題材は、旧六郷町などを取材したものにより、小正月の風習や子どもたちの遊びの風景が描かれている。

11 「盆市」

昭和21年、日展入選

題材は、秋田市馬口労町で開かれていた草市（※）

※ 草市はお盆前日に開かれ、供え物や花を売る夜店が立ち並んでいた。

12 「大漁盆踊」

昭和22年、日展入選

題材は、男鹿市船川で行われていた盆踊り

13 「豊年盆踊」

昭和23年、日展入選

題材は、羽後町で行われていた西馬音内盆踊り

14 【米作四題】「堆肥運び（冬）」昭和24年、日展入選

15 【米作四題】「田植（夏）」昭和25年、日展入選

16 【米作四題】「刈あげ（秋）」昭和26年、日展入選

17 【米作四題】「耕土（春）」昭和27年、日展入選

題材は、四季を通じて農作業に励む農民の姿を描いた田園風俗

巧みな遠近法を用いて田園の広がり表現しているとともに、戦前の失われていく秋田の農村の原風景、変わりゆく農村風俗を描いている。

18 【祭四題】「たいまつ祭」

昭和30年、日展入選

題材は、旧大曲市にある大日神社で旧暦4月17日に行われていた地域の祭り

19 「番楽」

昭和31年、日展委嘱作品

題材は、旧阿仁町で旧暦8月13日の晩に行われていた幸屋渡番楽

20 「飾山囃子」

昭和32年、日展委嘱作品

題材は、旧角館町で行われる「角館祭りのやま行事」の中で、神明社の祭礼で演じられていた飾山囃子



①「雪国の市場」



②「雪の街」



(上)③「橇」



(下)④「造花」





(右)
⑨「送り盆」



⑤花四題
「春(ツバキ)」



⑥花四題
「夏(ハス)」



⑦花四題
「秋(菊)」



⑧花四題
「冬(なんてん)」

(右)
⑩「雪国の子どもたち」





(上)⑪「盆市」



(上)⑫「大漁盆踊」



(右上)



⑬「豊年盆踊」



(右)



⑭「たいまつ祭」



(左上)

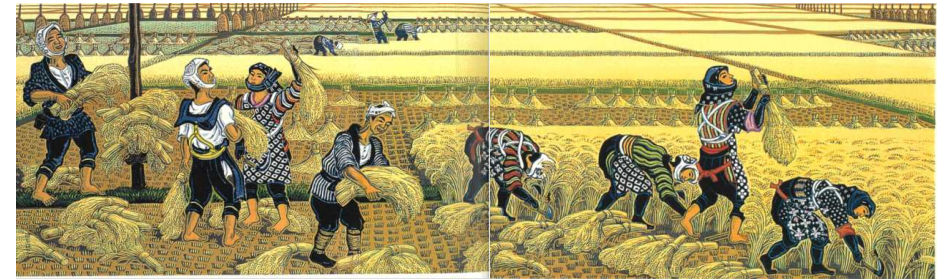
⑮「番楽」



(左下)

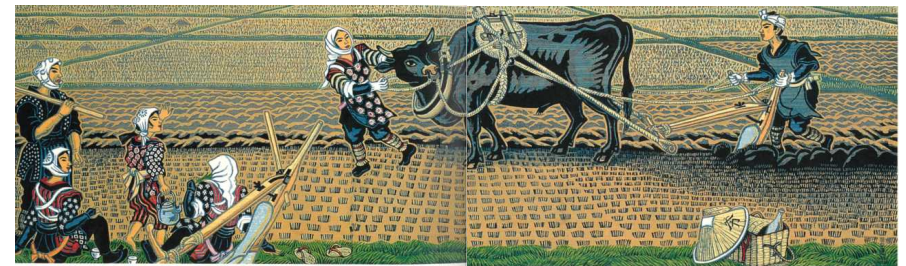
⑯「飾山囃子」





(上)⑭米作四題「堆肥運び(冬)」
 (下)⑮米作四題「田植(夏)」

(上)⑯米作四題「刈あげ(秋)」
 (下)⑰米作四題「耕土(春)」





⑤花四題
「春(ツバキ)」
版木全面